

カキ「西村早生」および「太秋」の雌花と雄花の着花特性					
<p>[要約] カキ「西村早生」や「太秋」では、樹齢に関係なく長い結果母枝ほど雌花が着生しやすい。結果母枝の種類では、不定芽由来の結果母枝に雌花が多く着生し、次いで前年の無着花（果）枝や雌花が着生した定芽由来の結果母枝で雌花の着生が多くなる。</p>					
担当部署	園芸研究所・果樹部・落葉果樹研究室			連絡先	092-922-4946
対象作目	果 樹	専門項目	栽 培	成果分類	生理生態

[背景・ねらい]

カキ「西村早生」は9月下旬に成熟する極早生の不完全甘ガキ品種として、本県では主要栽培品種の一つとして位置づけられている。平成7年に農水省果樹試で育成されたカキ「太秋」は大玉で品質の優れた完全甘ガキであり、今後の増殖が期待される。しかし、これらの品種は雌花と雄花を着生する雌雄同株であるため、雌花と雄花の着生割合が年によって大きく変動し、また樹齢の進行に伴い雌花着生が減少傾向となるなど収量不安定要因の一つとなっている。そこで、収量の安定確保に向けて雌花の着生技術を確立するため、これらの品種の雌・雄花の着花特性を明らかにする。（要望機関名：久留米普（H9））

[成果の内容・特徴]

1. 「太秋」では、幼木、高接ぎ樹とも樹齢に関係なく、結果母枝の長さとも1結果母枝当たり雌花着生数との間に正の相関が認められ、長い結果母枝ほど雌花の着生数が多い（図1）。「西村早生」でも、長い結果母枝ほど雌花の着生数が多くなる（図2）。
2. 不定芽由来の結果母枝は定芽由来の結果母枝より雌花の着生数が多い。次いで前年の無着花（果）枝や雌花が着生した定芽由来の結果母枝で雌花の着生が多くなる。（表1、2）。
3. 幼木のうちは雄花は着生しないが、高接ぎ樹では高接ぎ後2年目から雄花が着生する。また、前年に雄花を着生した結果母枝には雌花の着生が少なく、雄花の着生が多い（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 雌雄同株のカキ「西村早生」や「太秋」の収量確保のための結果母枝選定の資料として果樹栽培技術指針に登載できる。
2. せん定時には、長い結果母枝、不定芽由来の結果母枝および前年に雄花を着生していない結果母枝を利用する。

[具体的データ]

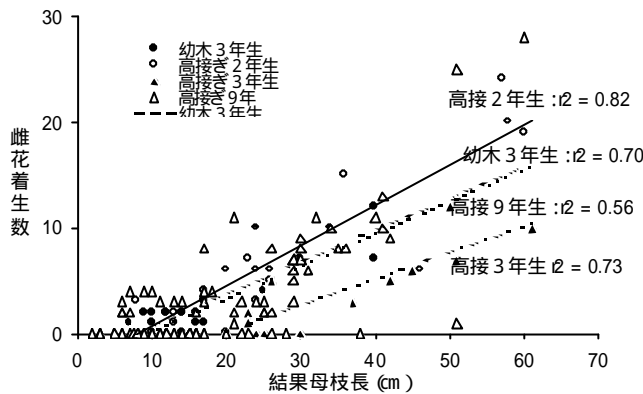


図1 樹齢の違いによる結果母枝の長さとの雌花着生数 (平成10年、太秋)

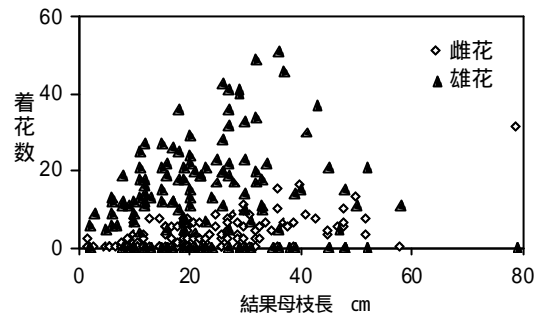


図2 結果母枝の長さとの雌花 雄花の着生数 (平成10年、西村早生)

表1 「西村早生」の結果母枝の種類と花芽の着生 (平成9年)

結果母枝の種類	枝数	結果母枝の資質		母枝当たり着花数		雌花着生枝率		
		由来	前年花性	枝長	基部径		雌花	雄花
定芽	雄花	本		cm	mm	花	花	%
			18	20.0	5.6	0.7	17.2	11.1
			70	25.7	8.3	0.4	19.5	21.4
	無着花	37	16.1	5.4	0.3	12.3	13.5	
不定芽	無着花	11	34.5	7.9	3.0	22.7	63.6	

表2 「太秋」の結果母枝の種類と雌雄花の着生 (平成9年)

調査樹種類	樹齢	結果母枝の種類		調査母枝長	母枝当たり着花数		雌雄花着生枝率	
		由来	前年花性		cm	雌花	雄花	雌花
幼木	3年生	定芽	無着花	19.0	3.5	0	90.5	0
高接ぎ	2年生	定芽	無着花	28.8	7.9	3.3	93.8	43.8
			雌花	39.4	5.1	21.3	87.5	100
高接ぎ	3年生	定芽	無着花	32.0	3.3	17.7	62.5	100
			雌花	32.0	3.3	17.7	62.5	100
			雄花	13.5	0.1	20.6	2.4	100
高接ぎ	9年生	定芽	無着花	11.6	2.9	9.2	82.4	52.9
			雌花	23.3	4.8	22.4	85.7	88.6
			雄花	13.5	0.1	20.6	2.4	100
	不定芽	無着花	37.1	8.9	14.3	85.7	71.4	

[その他]

研究課題名：カキの着花特性の解明に基づく樹勢及び雌花着生調節技術の確立

予算区分：国庫

研究期間：平成12年度 (平成9～12年)

研究担当者：林 公彦、千々和浩幸、牛島孝策

発表論文等：園芸学会雑誌第68巻別冊1、福岡県農業総合試験場研究報告20号、

九州農業研究第62号